

海外主要都市の無料Wi-Fi状況 に関する調査

NTTコミュニケーションズ株式会社

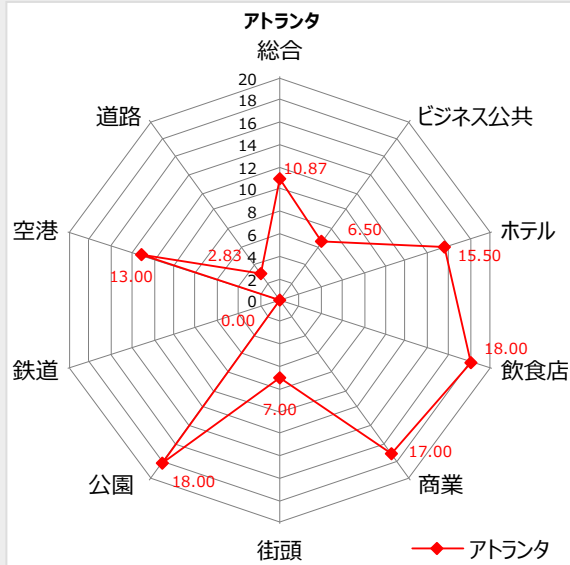
『出典：日経BPコンサルティング 2015年2月調査』

アトランタ (アメリカ)

契約なしで利用できる一方
ポイントの少なさがマイナス

総合評価

10.87 (東京比較-2.78)



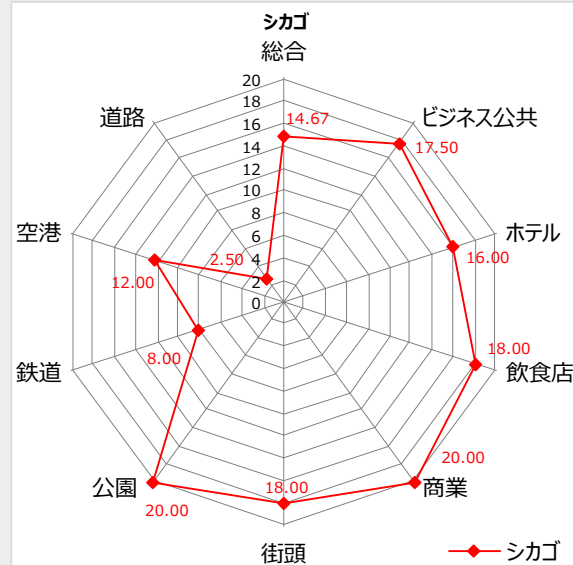
公園、カフェ・飲食店、ショッピングエリア・モールは高評価。ネットワーク選択のみで利用できる利便性の高さがある一方で、無料Wi-Fiポイントの少なさが最大のネックになっています。

シカゴ (アメリカ)

アメリカ屈指のWi-Fi都市
都市部は快適に利用可能！

総合評価

14.67 (東京比較+1.02)



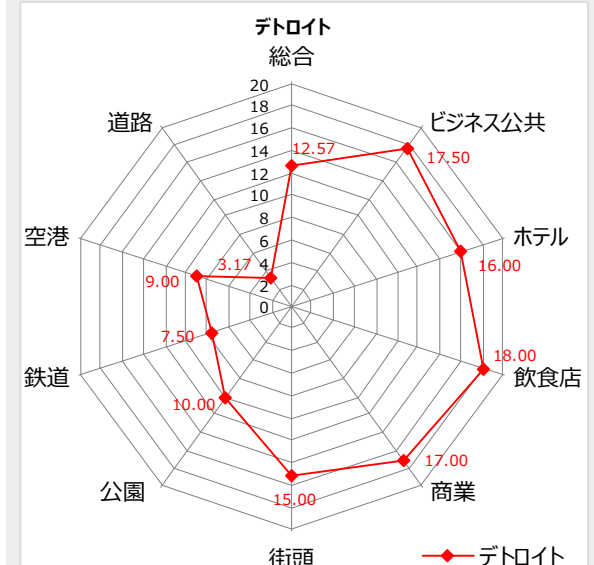
屋内、屋外問わず都市部には高いレベルで無料Wi-Fi環境が整備されています。鉄道、空港、道路といった交通機関は弱いものの、ネットワーク選択だけで利用できる点が高いスコアにつながっています。

デトロイト (アメリカ)

財政破綻で普及ペースが鈍化
エリア限定で快適に利用可能！

総合評価

12.57 (東京比較-1.08)



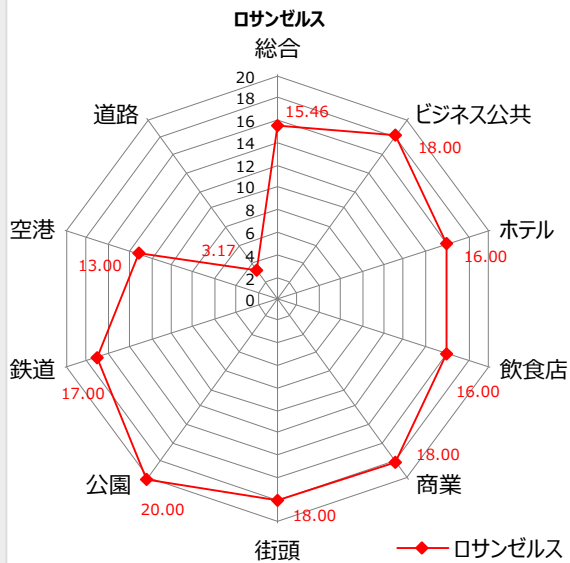
2013年の財政破綻により市当局が無料Wi-Fi化に消極的。カフェ・飲食店、ビジネスビル/公共施設などに限れば、複数の通信事業者が提供する無料Wi-Fiサービスが利用制限なしで快適に利用できます。

ロサンゼルス (アメリカ)

市全体の主要エリアに普及
制限なしで使える点も魅力！

総合評価

15.46 (東京比較+1.81)



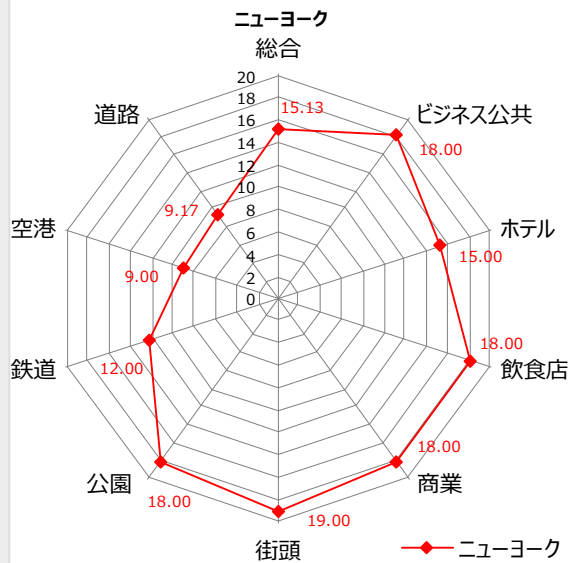
道路を除くすべてのエリアに無料Wi-Fiエリアが浸透。とくに公園には最高評価を獲得しています。無料Wi-Fiのネットワークを選択すれば誰でも無制限に利用できる点もポイントです。

ニューヨーク (アメリカ)

世界が集うビジネス街は
圧倒的な無料Wi-Fi普及率！

総合評価

15.13 (東京比較+1.48)



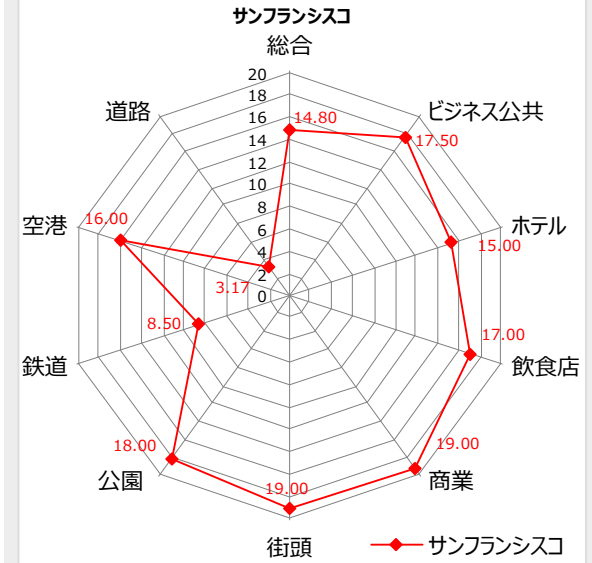
ビジネスビル/公共施設、カフェ・飲食店、街頭/ストリート、ショッピングエリア・モール、公園の5項目で最高評価。都市部であればどこにいても、ほぼ確実に無料Wi-Fiサービスが利用できます。

サンフランシスコ (アメリカ)

無料Wi-Fiエリアが広く浸透
ネットワーク選択のみで利用可能！

総合評価

14.80 (東京比較+1.15)



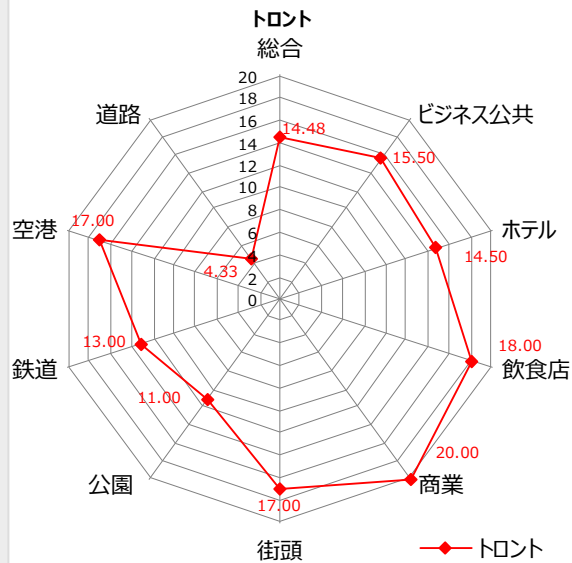
ショッピングエリア・モール、街頭/ストリート、公園、ビジネスビル/公共施設、カフェ・飲食店の5項目で最高評価。利用制限もないめ、渡航者でも手軽に無料Wi-Fiサービスが利用できます。

トロント (カナダ)

カナダ有数の無料Wi-Fi普及率
利用制限なしで渡航者も安心！

総合評価

14.48 (東京比較+0.83)



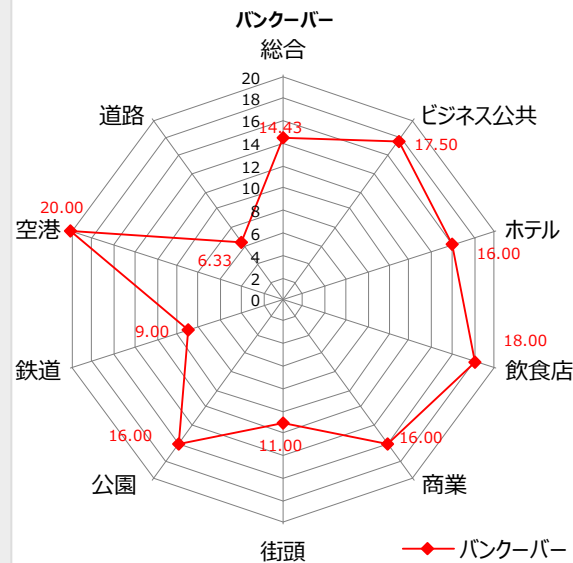
無償ボランティアコミュニティ「wirelesstoronto」が都市の無料Wi-Fi化を牽引。ショッピングエリア・モール、カフェ・飲食店、街頭/ストリート、空港が最高評価。利用制限もないため渡航者でも手軽に使えます。

バンクーバー (カナダ)

渡航者でも手軽に利用できるが
空港、飲食店、ホテルなどに限定

総合評価

14.43 (東京比較+0.78)



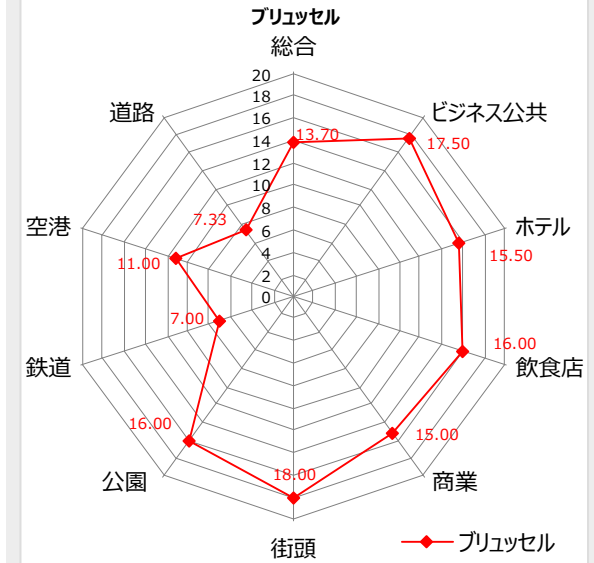
海外からの渡航者も手軽に利用できる無料Wi-Fi環境があり、空港、ビジネスビル/公共施設、ホテル、カフェ・飲食店などで使えます。街頭、鉄道、道路への普及が今後の課題です。

ブリュッセル (ベルギー)

都市部は高いレベルで整備済み
とりわけ公共エリアは充実！

総合評価

13.70 (東京比較+0.05)



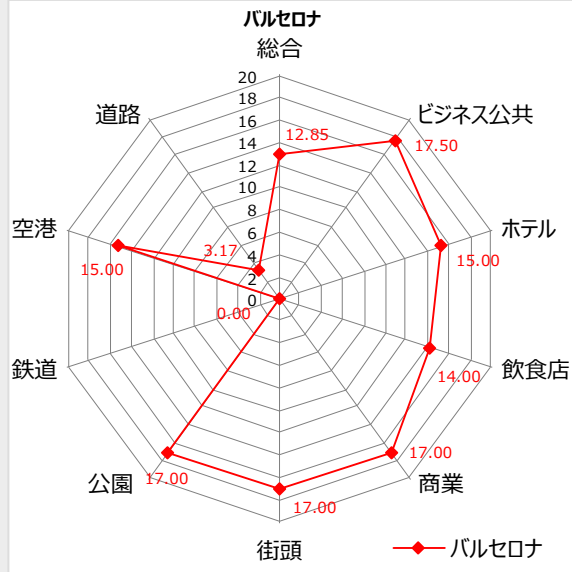
市当局が提供する「Urbizone」「Bru Wi-Fi」といった利用制限のない無料Wi-Fiサービスが都市部の広いエリアをカバー。1回の利用制限2時間という制限はありますが、再接続すれば何度でも利用できます。

バルセロナ (スペイン)

鉄道、道路以外のエリアに浸透
都市のさまざまなシーンで利用可能！

総合評価

12.85 (東京比較-0.80)



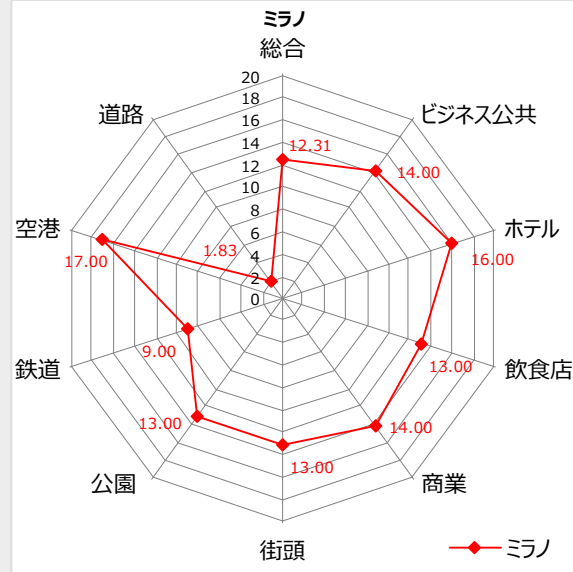
市当局が提供する無料Wi-Fiサービス「Barcelona WiFi」が多くのエリアで利用可能。利用規約に同意するだけで無料Wi-Fiサービスが利用できます。近い将来、未整備の鉄道、道路でも提供予定です。

ミラノ (イタリア)

ATMポイントで手続きを行えば
誰でも無料Wi-Fiが使えるように！

総合評価

12.31 (東京比較-1.34)



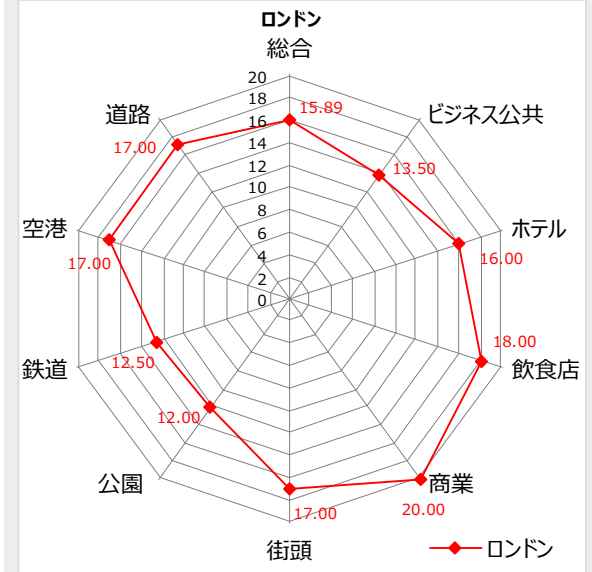
市当局が提供する無料Wi-Fiサービス「Open Wi-Fi Milano」は、地下鉄にあるATMポイントで手続きさえ行えば誰にでも利用可能。評価の高い空港、ホテルをはじめ、さまざまなエリアで使えます。

ロンドン (イギリス)

ほぼ公共エリアはカバー
欧州最大のWi-Fi地帯！

総合評価

15.89 (東京比較+2.24)



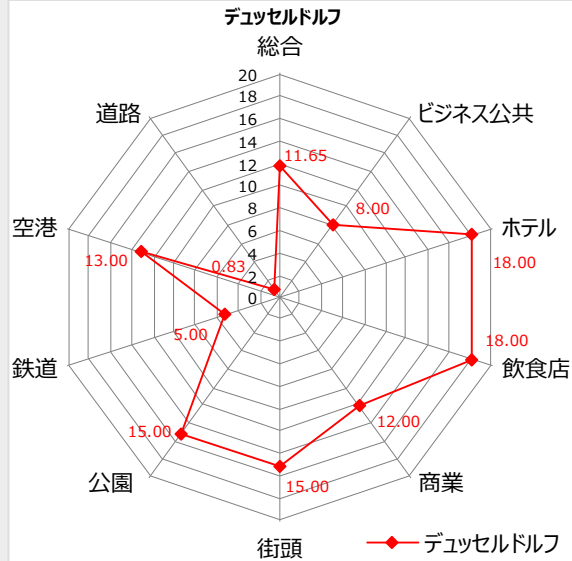
無料Wi-Fiサービスは「O2」「The Cloud」中心。公共エリアを広くカバーしているため、カフェ・飲食店、ショッピングエリア・モール、街頭/ストリート、空港、道路は最高評価を獲得しています。

デュッセルドルフ (ドイツ)

利用頻度の高いエリアはカバー
屋外を中心にWi-Fi化が拡大!

総合評価

11.65 (東京比較-2.00)



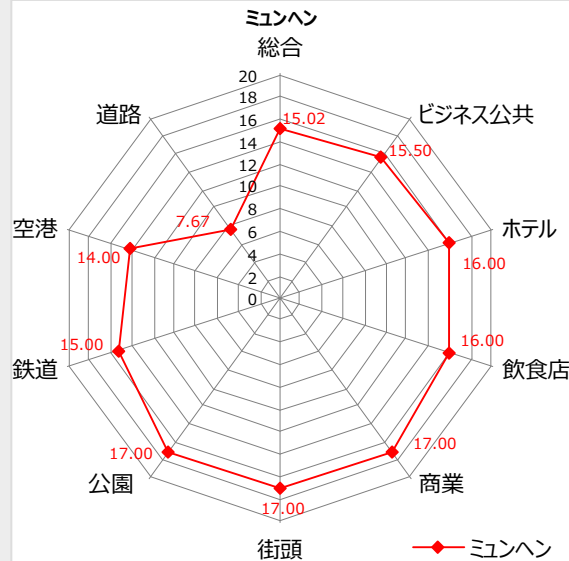
市当局が「bluespot Free WiFi」による無線Wi-Fi化を積極的に展開。ネットワークを選択するだけで渡航者でも手軽に利用できます。街頭/ストリートが強い反面、商業施設、交通機関は未整備の状態です。

ミュンヘン (ドイツ)

道路以外のエリアすべてで高評価
誰もが簡単に利用できる魅力も!

総合評価

15.02 (東京比較+1.37)



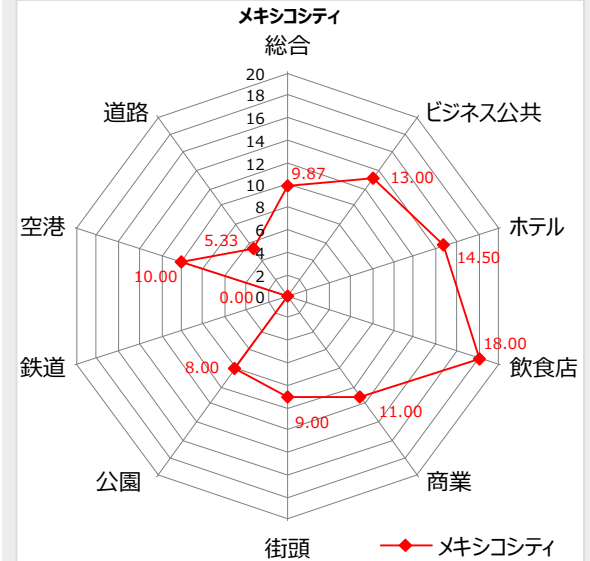
無制限で利用できる無料Wi-Fiサービス「M-WLAN」に加え、30分無料Wi-Fiサービスが公共エリアを幅広くカバー。とくにショッピングエリア・モール、街頭/ストリート、公園などには浸透しています。

メキシコシティ (メキシコ)

渡航者の利用にはやや不便
ホテル、カフェ・飲食店に限定

総合評価

9.87 (東京比較-3.78)



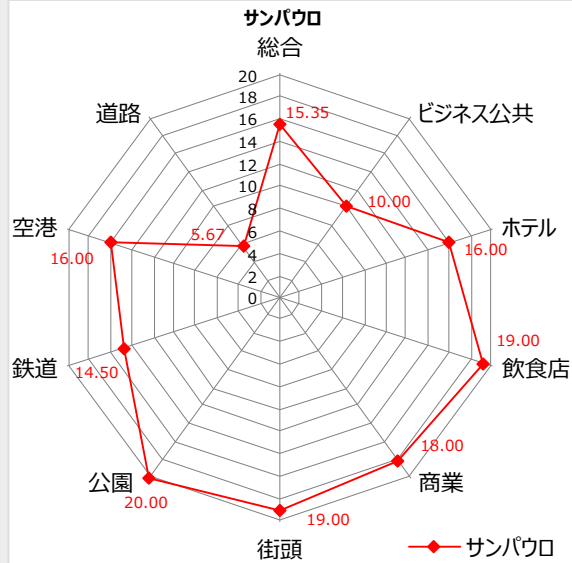
多くの無料Wi-Fiポイントを「テレメックス」が提供。利用には同社との契約が必要になっていることが、渡航者のネックに。なお、ホテル、カフェ・飲食店には契約不要で利用可能なサービスもあります。

サンパウロ (ブラジル)

街頭・公園エリアを中心に充実
無条件、無制限で利用が可能！

総合評価

15.35 (東京比較+1.7)



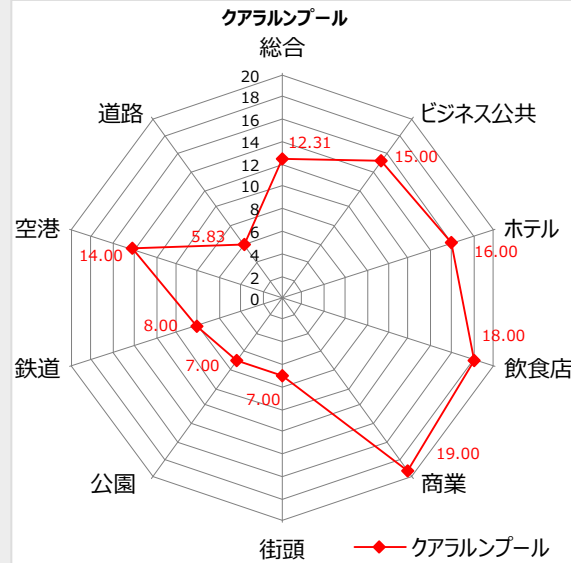
市当局が手がける「WiFi Livre」による無料Wi-Fi化により街頭、公園などを中心にエリアが拡大中。ホットスポットの数が少ない反面、利用条件がなく、無制限に利用できる点が高い評価につながっています。

クアラルンプール (マレーシア)

都市部は無料Wi-Fi化が浸透
商業施設、飲食店、ホテルはOK！

総合評価

12.20 (東京比較-1.45)



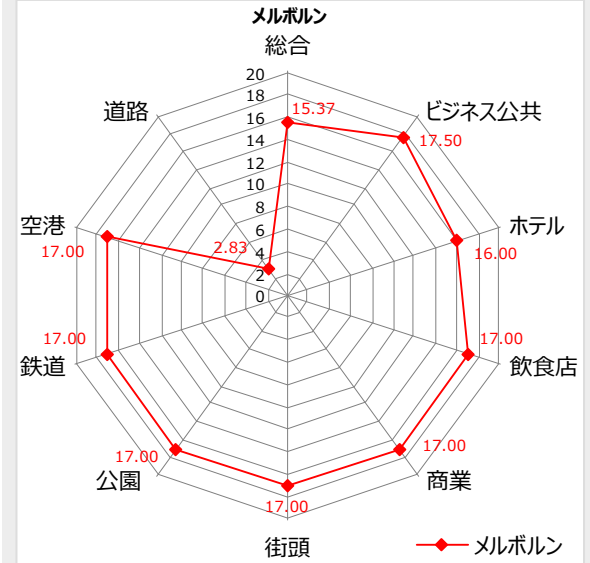
ホテル、カフェ、公立病院、ショッピングモール、公立図書館、中心地の交通機関などで無料Wi-Fiが利用可能です。基本的に利用制限はありませんが、カフェについては一部有料の店舗もあります。

メルボルン (オーストラリア)

市・州当局が無料Wi-Fiに注力
渡航者でも手軽に利用可能！

総合評価

15.37 (東京比較+1.72)



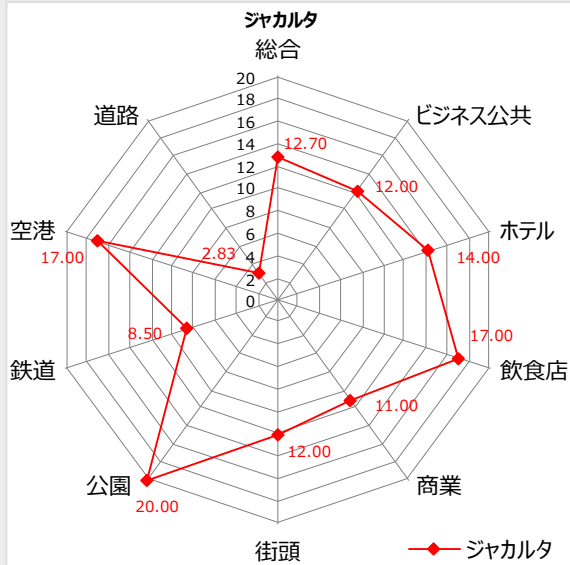
公共エリアにおける無料Wi-Fiの充実度は世界屈指。利用規約に同意するだけで渡航者でも手軽に利用できる点もポイントです。都市部はもちろん、鉄道や空港でも利用できます。

ジャカルタ (インドネシア)

公共エリアは比較的充実
公園、カフェ、街頭が強い！

総合評価

12.70 (東京比較-0.95)



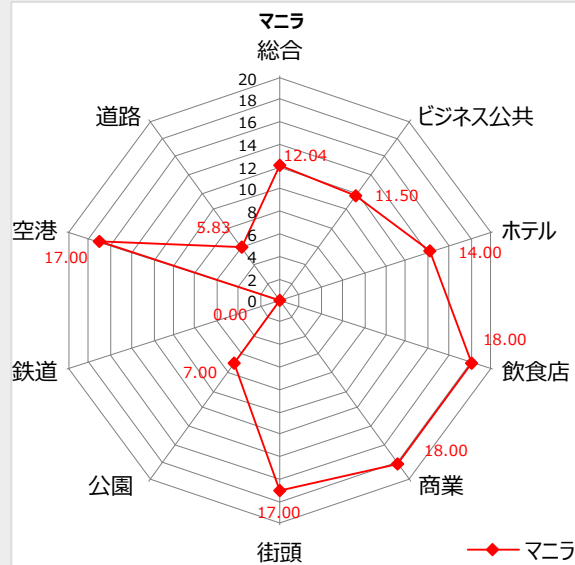
公共公園の大多数で無料Wi-Fiが利用可能。コーヒー店とラウンジの多くが無料Wi-Fiの看板を掲出し、街路にも無料Wi-Fiスポットが多く設置されています。また利用制限がなく、渡航者でも安心です。

マニラ (フィリピン)

飲食店、商業施設は高評価
2016年にはさらに拡大予定！

総合評価

12.04 (東京比較-1.61)



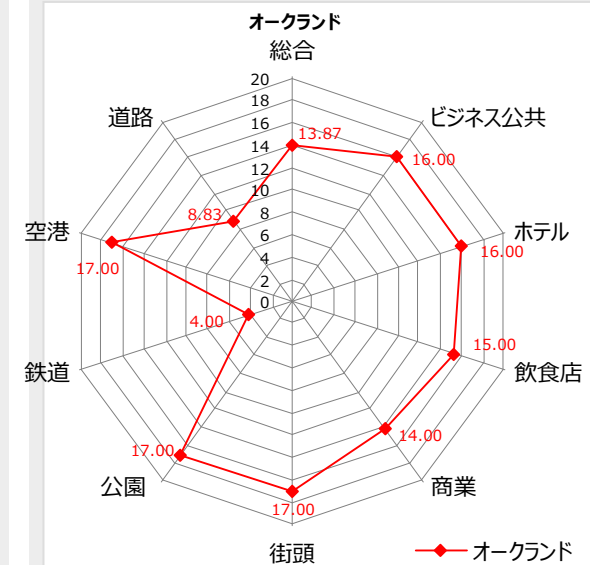
カフェ・飲食店、ショッピングエリア・モールの無料Wi-Fi化が充実。現在、未整備の公共施設、公園、交通機関なども2016年には整備される予定。利用制限なしに使える利便性もポイントになっています。

オークランド (ニュージーランド)

市議会が積極的に普及に注力
ほぼ東京と同レベルのスコア！

総合評価

13.87 (東京比較+0.22)



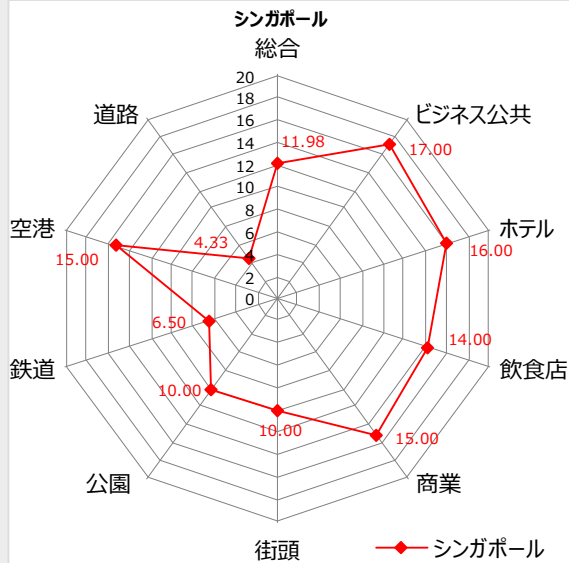
市議会が立ち上げた無料Wi-Fiサービス「Auckland @Tomizone」によりエリアが急速に拡大。Wi-Fiに接続できる端末であれば条件なしで利用できます。ただし1端末1日30分まで。延長は有料になります。

シンガポール (シンガポール)

政府主導で無料Wi-Fi化を推進
ビジネスビル、ホテルなどが高評価！

総合評価

11.98 (東京比較-1.67)



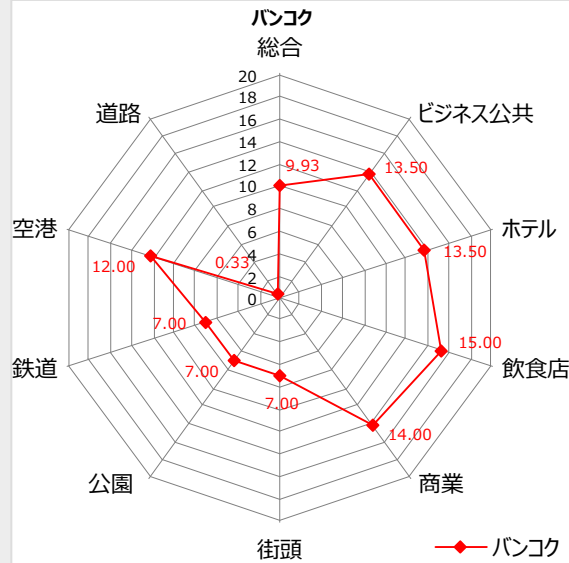
政府主導の無料Wi-Fiサービス「Wireless@SG」が浸透。チャンギ国際空港での利用登録が必須ですが、ビジネスビル/公共施設、ホテル、カフェ・飲食店、ショッピングモールなどの広いエリアで使えます。

バンコク (タイ)

現時点ではやや不十分の印象
渡航者には利用しづらい環境

総合評価

9.93 (東京比較-3.72)



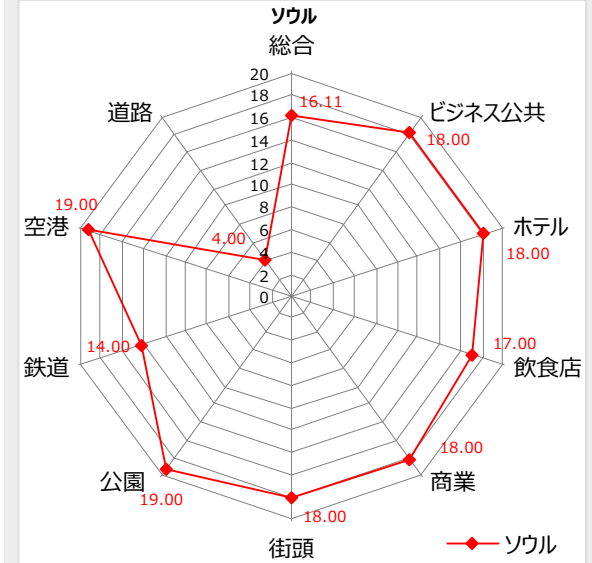
カフェ・飲食店、ホテル、ビジネスビル/公共施設に無料Wi-Fiが普及する一方で、交通機関、屋外環境の整備は不十分。利用の際にタイの携帯電話番号の入力が必要なため、渡航者には厳しい状況です。

ソウル (韓国)

市当局がプロジェクトを推進
無料Wi-Fiエリアが充実！

総合評価

16.11 (東京比較+2.46)



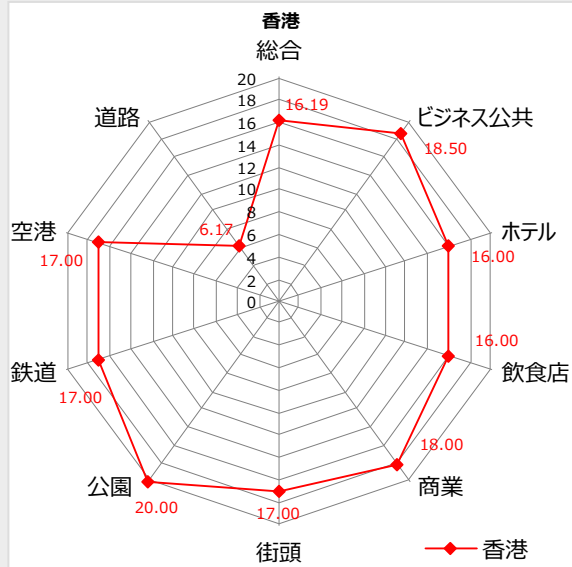
ソウル市主導の「スマートソウル2015プロジェクト」のもと、公共施設を中心に無料Wi-Fiスポットを拡大。道路という弱点はあるものの、その他のエリアでは渡航者でも容易に無料Wi-Fiが使えます。

香港 (中国)

世界屈指のWi-Fi先進都市
道路以外はほぼ最高評価！

総合評価

16.19 (東京比較+2.54)



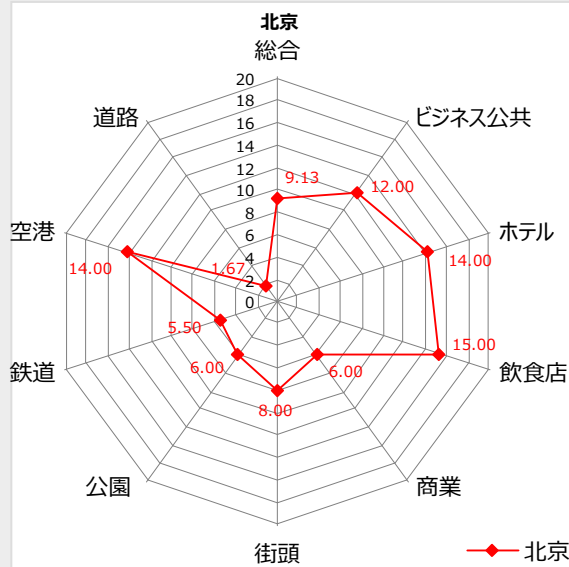
香港は世界でいちばん無料Wi-Fiが普及している都市の一つ。Wi-Fi接続の端末があれば渡航者でも利用条件なしで使える利便性の高さもポイントです。道路以外はつながると思って間違いありません。

北京 (中国)

北京オリンピック以降、急速に
無料Wi-Fiスポットが拡大中！

総合評価

9.13 (東京比較-4.52)



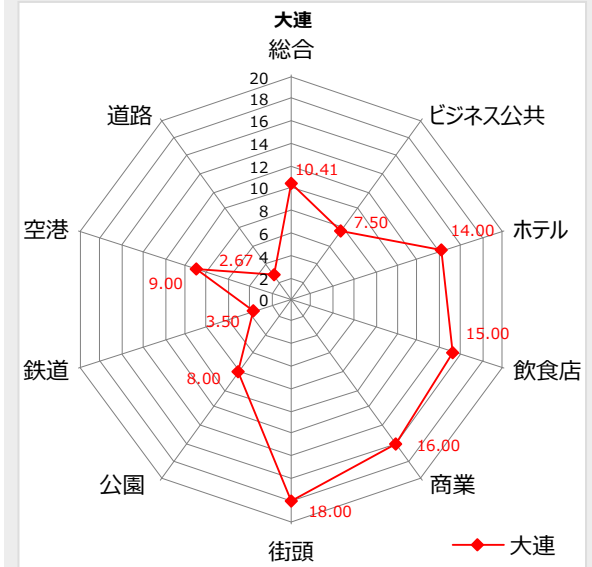
中国3大通信キャリアによる無料Wi-Fiサービス「MyBeijing (我的北京)」のアクセスポイントは8万以上。中国の携帯電話キャリアとの契約が利用条件ですが、北京国際空港は利用登録のみで使えます。

大連 (中国)

市当局が無線都市計画を推進
やはりキャリアとの契約が必要

総合評価

10.41 (東京比較-3.24)



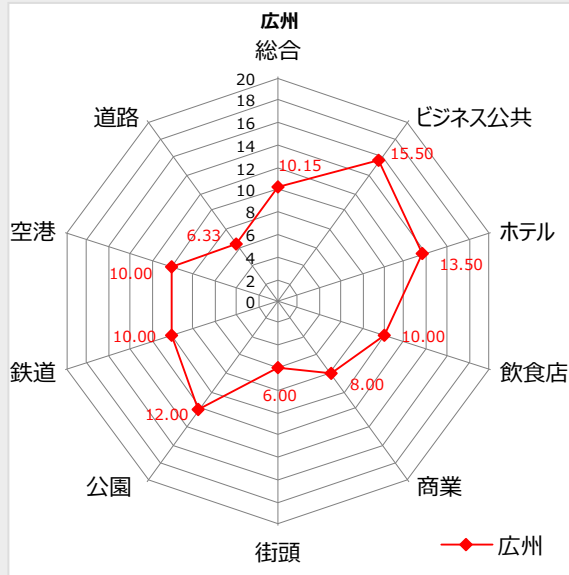
大連市が2012年より推進する「無線都市 (Wireless City)」計画により、市の主要エリアで無料Wi-Fiが利用可能。ただし、中国の携帯電話キャリアとの契約が必要。使い勝手にはやや問題があります。

広州 (中国)

公共施設を中心にエリア拡大
ただしキャリアとの契約が必要

総合評価

10.15 (東京比較-3.5)



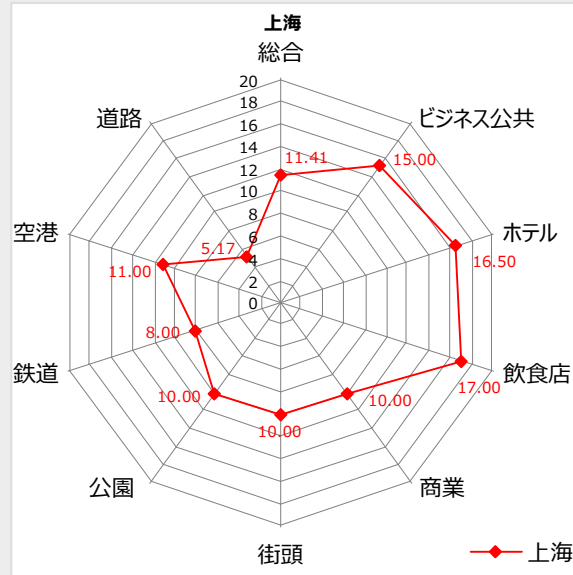
ビジネスビル/公共施設、ホテルなどは高評価。カフェ・飲食店は上海、北京と比較すると低めのスコアです。上海と同様、中国の携帯電話キャリアの契約が必要になることがマイナス評価につながっています。

上海 (中国)

無料Wi-Fi環境は比較的普及
使い勝手が渡航者のハードルに

総合評価

11.41 (東京比較-2.24)



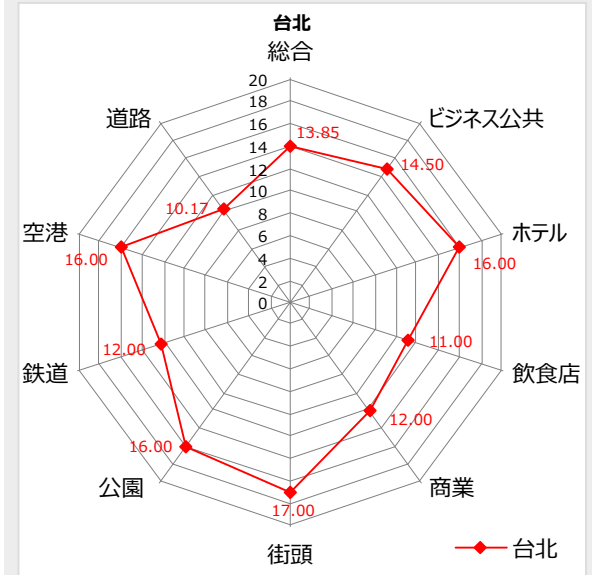
市当局が進める「i-Shanghai」により無料Wi-Fi化が拡大。カフェ・飲食店、ホテル、ビジネスビル/公共施設が高評価である反面、利用には中国国内の携帯電話契約が必要になるという難点があります。

台北 (台湾)

国策で無料Wi-Fiスポット充実
アジア屈指のつながりやすさ！

総合評価

13.85 (東京比較+2.00)



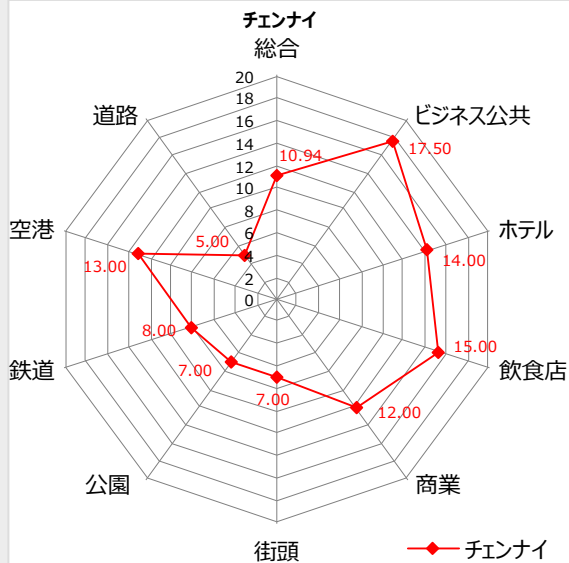
観光スポット、駅、地下街、公園、余市、住宅街、公共施設で利用できる約5,000の無料Wi-Fiスポット「Taipei Free」を提供。アジアではトップレベルの無料Wi-Fi先進国です。

チェンナイ (インド)

公共施設、飲食店は高評価
使い勝手には難点あり

総合評価

10.94 (東京比較-2.71)



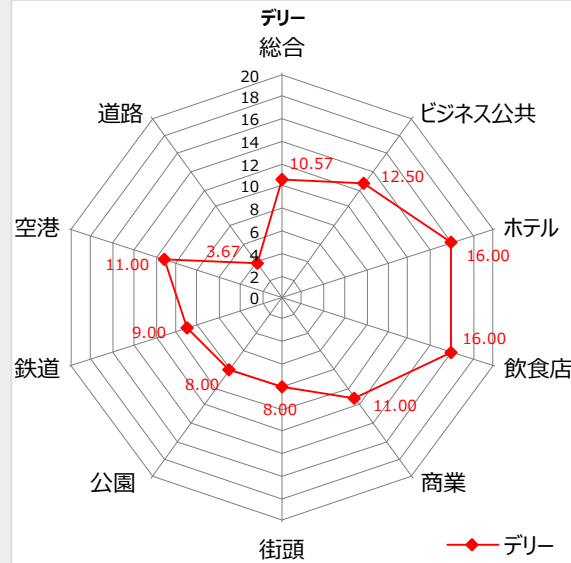
ホテルやカフェなどが個別に提供している無料Wi-Fiサービス以外は、インドの携帯電話キャリアとの契約が必須。また、無料で利用できる時間に制限があることも多く、利用するには注意が必要です。

デリー (インド)

突出なくも全体的に平均点
狙い目はホテルとカフェ！

総合評価

10.57 (東京比較-3.08)



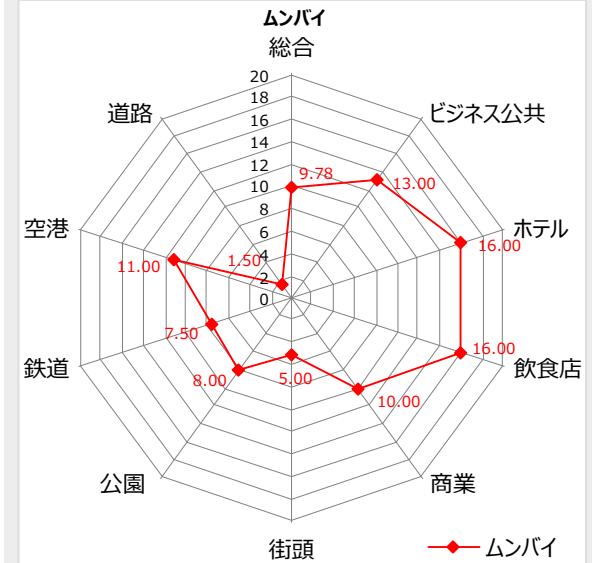
都市部にも交通機関にも平均的に無料Wi-Fi環境が整備されています。多くのホテル、カフェ・飲食店で利用できますが、インドの携帯電話番号の登録が渡航者にとって高いハードルになっています。

ムンバイ (インド)

ホテル、カフェは利用可能
その他は現地で契約が必要

総合評価

9.78 (東京比較-3.87)



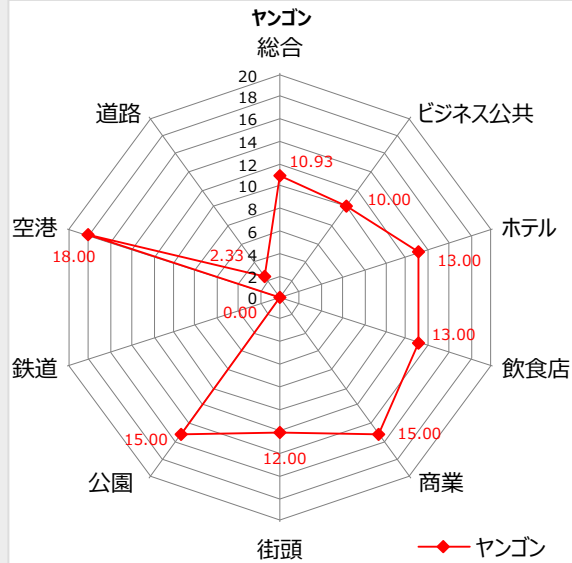
所要な公共エリアでの無料Wi-Fiを利用するためには、インドの携帯電話契約が必要。海外からの渡航者はホテル、カフェ・飲食店で利用限定になることがスコアを下げた一因となっています。

ヤンゴン (ミャンマー)

エリア限定の発展途上都市
利用は空港、商業施設で！

総合評価

10.93 (東京比較-2.72)



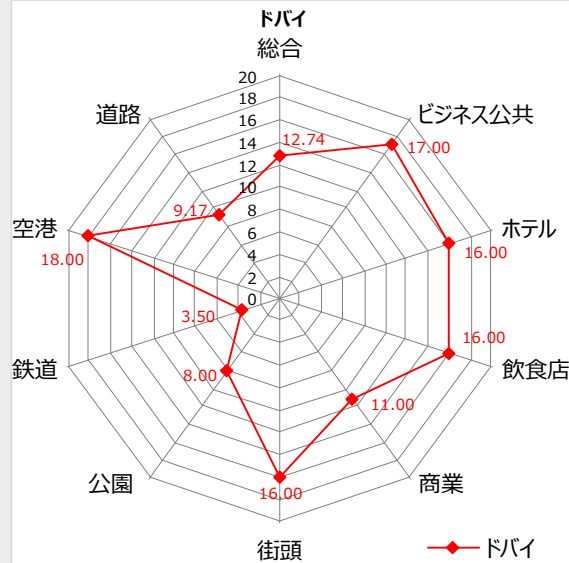
公共エリアにおける無料Wi-Fiポイントの少なさが課題。空港、商業施設、公園などは比較的高評価となっており、無条件で利用できる渡航者にとっての利便性は確保されています。

ドバイ (アラブ首長国連邦)

Wi-Fi環境は整っている反面
無料エリアの充実はこれから

総合評価

12.74 (東京比較-0.91)



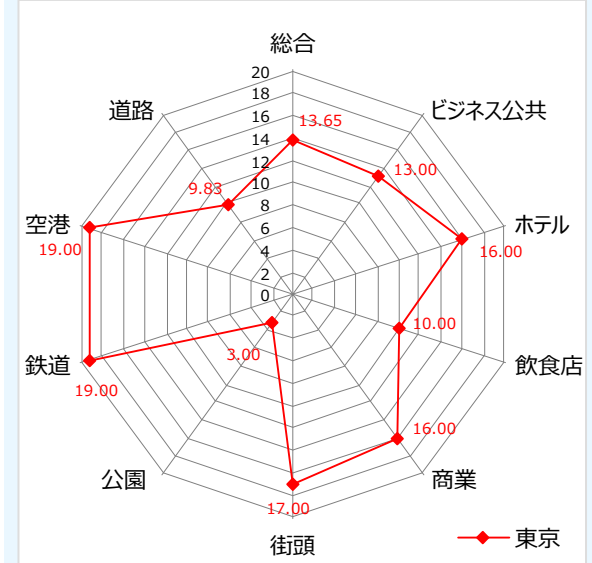
市当局が無料Wi-Fiサービスのプロジェクトを推進中で空港、ビジネスビル/公共施設には普及。またカフェの多くで無料Wi-Fiが提供されていますが、大半は30分～1時間の利用制限があります。

東京 (日本)

オリンピックに向けて普及が加速
相次ぐ企業の参入で広域化へ！

総合評価

13.65



東京オリンピック開催が決まり、海外渡航者から不満の高かったW-Fiエリアの拡大が官民一体で進行中。空港、鉄道、街頭、ホテルなどには、かなり高い割合で無料Wi-Fiポイントが浸透しています。